

巻頭言

I-LISS Japan Chapter: はじめての総会と研究大会

大城 善盛

(Journal of I-LISS Japan 副会長・編集長)

2019 年 10 月 27 日（日）、相愛大学の本町学舎で、2019 年度の I-LISS Japan Chapter の総会と研究大会が開催された。2017 年に I-LISS Japan Chapter（設立期は LISSASPAC Japan Chapter）が設立されてからの初めての総会であり、研究大会であった。

総会においては、会計報告に加えて、会員が 26 人に増えたこと、本部との関係で生涯会員と年会員の 2 種があることが報告された。また、支部の仕事の複雑さが増してきたため、3 人の副会長職が設置され、新しく 2 人が副会長に選出された。一人は国際交流と雑誌の編集担当、もう一人は 2022 年に日本に招聘予定の I-LISS International Conference の開催担当になった。さらには、顧問職も設置することが決まった。

研究大会は、I-LISS 会長の Oh 博士に加えて、スウェーデン西部学校図書館協会会長の Fredrik Ernerot 氏がゲスト・スピーカーとして来日なされ、また、会員以外の方の参加もあり、意義のある研究大会になった。Oh 博士の英語による講演の通訳は関西学院千里国際中等部・高等部の司書教諭の中野ひかるの会員が務め、Ernerot 氏の英語による講演の通訳は相愛大学講師の岡田大輔会員が務めた。

2 つの基調講演に加えて、2 つの研究発表もなされた。1 つは、中島幸子会員（同志社大学非常勤講師）、坂下直子会員（京都女子大学非常勤講師）、大城善盛会員（元同志社大学教授）の共同研究発表で、タイトルは「AASL “新学校図書館基準” の概要と意義」であった。発表は中島会員によってなされた。2 つ目の発表テーマは大城善盛会員（元同志社大学教授）会員による「専門職団体としての香港図書館協会と JLA の比較」であった。

基調講演も研究発表も Q&A の時間も設けてあったので、質問も活発に行われた。特に Ernerot 氏の講演の際には、遠い北欧からのゲスト・スピーカーということで、「20 分」という長い質問の時間を設け、情報交換による貴重な情報が得られるよう配慮されていた。（巻末に付けた「2019 年度 I-LISS Japan Chapter 研究大会プログラム」も参照。）

この総会と研究大会においては、締めくくりとして懇親会が企画された。Oh 博士は日程の都合で懇親会には参加できなかったが、昼間は諸般の都合で参加できなかった会員も参加し、Ernerot 氏を囲んで賑やかな懇親会になった。

I-LISS Japan Chapter としては初めての研究大会であったが、研究大会だけで終わらせるのは勿体ないということで、このジャーナルに特集号として掲載することにした。次年度以降も研究大会が開催され、このジャーナルに特集号として掲載されることを期待したい。